

三鷹市教育委員会 様

校長 仲光 秀城  
(公印省略)

平成27年度 東三鷹学園 三鷹市立北野小学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価 ※学園内で統一記述				学校評価 ※学校ごとに記述											
今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること				今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述				来年度の改善方策 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述							
<p>▲学園全体の基礎学力が十分とは言えない。UD等を活用し、全教員の授業力をさらに向上し、児童・生徒の学力の向上を図ることが課題である。 ▲「東三鷹学園スタンダード」を活用した家庭は20%程度であり、「東三鷹学園スタンダード」の活用が課題である。 ▲サポート隊事務局の活動をさらなる充実、定着、中学校のサポート隊事務局の設置とサポート隊活用の在り方を検討していくことが課題である。</p>				<p>○次年度も学園合同研究でのテーマを継続し、ユニバーサルデザインを視点とした授業づくりを全教員で推進していく。三鷹市研究協力校としての発表を活用して、研究をさらに深め、子どもたちにとって「分かる」「できる」授業づくりを行い、学力向上を旨としている。</p> <p>○学園スタンダード活用向上のために、CS委員会内にプロジェクトチームを立ち上げ、学校と協働して活用率アップを図る ○サポート隊と協働した授業を旨とし、教育力の向上を図る。次年度以降、</p>				<p>＜人間力・社会力＞交流活動やTEHの活動をさらに充実していくことが課題である。 ＜学園・学校運営＞学園マニフェストに対する教員の意識をさらに高めていくことが課題である。 ＜小・中一貫校として＞UDの視点で校内整備をさらに広げる。乗り入れ授業の効果として学力向上へつなげていく。 ＜学力向上＞補充学習への取組が学年により差がある。UDの視点での授業改善を進めることが課題である。 ＜健全育成＞「東三鷹学園スタンダード」の活用が十分でなかった。Q-U調査の分析を実際の指導、学級経営に十分に生かされていない。 ＜コミュニティスクールの運営＞サポート隊事務局と教員の連携をさらに密にする。教員の地域行事への参加をさらに促進する必要がある。 ＜特色ある教育＞学校農園活動、縦割り班活動、体力向上の取組を充実するとともに、学園だより、HPでさらに発信し多くの方知ってもらうことが課題である。</p>				<p>＜人間力・社会力＞交流活動ごとに保護者・地域に発信する、いろいろな挨拶ができるように、活動の広がりを図る。 ＜学園・学校運営＞マニフェスト達成のための具体的な取組を発信していく。UDを視点とした校内環境整備をさらに充実する。 ＜小・中一貫校として＞乗り入れ授業の効果を上げるために、教員同士の連携を深める。市研究協力校としての発表に向けて、さらに授業改善を図る。 ＜学力向上＞サポート隊の活用等、工夫して補充学習に取り組む。研究授業・OJTを継続、充実し授業力向上につなげる。 ＜健全育成＞「東三鷹学園スタンダード」の家庭での活用をCS委員会と連携して推進する。Q-U調査を継続し、学級経営への具体的な手立てに繋げる。 ＜コミュニティスクールの運営＞サポート隊を生かした教育活動を推進するために、サポート事務局と連携を強化する。 ＜特色ある教育＞農園活動、縦割り班活動を継続、充実していくとともに、オリンピック・パラリンピック教育をさらに推進する。</p>			
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策	取組項目	学校の経営目標 (中期目標)	今年度の重点目標 (単年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組 成果	第2回評価 取組 成果	自己評価(第2回)	学校関係者評価(第2回)				
人間力・社会力の育成	1、他者との適切な関係を作る力 2、他者とともに自己実現を図る力 3、地域貢献する力	1、小・小交流・5年交流活動、6年合同自然教室・水泳記録会、小・中交流：体育祭に小学生の参加、運動会に中学生ボランティア、小6中学校体験、部活体験、小4・中3音楽交流会、中1、2の小学校ふれあい体験を実施し人間関係を深めた。 2、小学校では、地域に根差し連携したアントレ教育を実施した。中学校では、防災教育と連動したアントレプレナーシップを1・2年で実施し、防災・減災の意識を高めた。 3、人権プロジェクトチーム「ハート」によるいじめ撲滅活動を実施した。中学生が小学校の朝礼で全校児童にいじめ撲滅を呼びかけ、「いじめ撲滅宣言」を小・中合同で作成する。TEH便りを発行した。のぼり旗を作製し挨拶運動を地域とともに実施した。 4、小学校では地域行事への参加を主に活動し、中学校では、学園内の2小学校と2町会の運動会、ふれあい朝市や市の農業祭等地域の行事に吹奏楽部が参加した。	1、小・小、小・中交流活動は、内容も充実し効果も上がっているが、時数の確保の工夫が必要である。そのために、教務部と連携し計画的な実施、各担当主任が活動内容を評価し精選していく。 2、小・中学校では、今後活動内容の質的な充実が課題である。そのために、外部評価の在り方、身近な社会への広げていく工夫・改善が必要である。特に中2生の取り組みが難しかったため、次年度は2年生で防災グッズの開発、3年生で防災訓練をプロデュースし、3年間防災に関することで貫いていく。 3、「いじめ撲滅宣言」に基づいた実践活動を深めることが課題である。宣言の実践と挨拶運動を連動させて、いじめをしない児童・生徒の育成を目指す。 4、小学校では、より多くの子供の地域行事への参加、中学校では、中学校では、ボランティア活動へのより積極的な参加が課題である。学園スタンダードを活用し、意識づけ価値づけを深め、実践に結び付けていく。	東三鷹学園の取組の充実を図り、児童・生徒の関わりの中で人間力・社会力を育成する。	小・小、小・中交流活動を通して、人間関係を深める。	予定されている小・小学校、小・中学校の交流授業や活動を計画的に実施する。		3	3	4	4	小・小学校、小・中学校の交流は定着し、計画的に実施されている。学園の取組であるという児童の意識も高まっている。	・活動が向上しているようです。 ・素晴らしいです。		
					TEH(学園生徒会・児童会)の活動の充実を図る。	あいさつ運動を中心にTEHの活動を各学級・学年で取り組む。新たな活動にも取り組む。		3	3	3	4	挨拶運動は定着し、児童から進んで挨拶するようになってきている。さらに充実していけるように、活動内容等の工夫を図っていく。	・活動内容の工夫等を学園だより等で広報してほしい。 ・挨拶は定着していると感じる。先生もいつも笑顔で迎えてくれる。 ・挨拶は自主的にできつつあると、保護者からの評価にもあった。 ・「はい」という返事、「ありがとう」「ごめんなさい」等も言える児童・生徒を育てたい。		
学園・学校運営	1、教員間、学校間の交流を円滑に推進する。 2、三鷹市教育研究協力校を推進する。	1、6委員会それぞれが、主任を中心に学園のマニフェスト実現のための取り組みを行い、学園組織の活性化を図ることができた。乗り入れ授業やふれあい活動等の交流活動、生活指導に関する授業参観や協議を確実に行うとともに、学園研究を充実させ、教員間並びに学校間の交流を円滑に推進することができた。 2、研究推進委員会を中心に、3校共通で同じ課題に取り組むことができ、学園として指導方法の工夫や授業改善の方向を示すことができた。また、研究を通じて学園運営に対する教職員の参画意識が高まった。UDの研究や環境整備について、学園だよりを通じて保護者や地域に対して周知するとともに、UDの視点に基づいた学校内の環境整備を行うことができた。	1、現在も日程調整や話し合いの時間を確保して各活動を進めているが、実態にそぐわない活動場面がある。さらに各校の実態に基づいた活動の工夫や見直しを行い、改善を図る必要がある。そのためには、担当管理職が各委員会の主任に対して適切な指導・助言を行うと同時に、ボトムアップを図ることができる委員会運営を目指す。 2、研究1年目ということで手さぐりで進めてきた。次年度の発表に向けて今年度の研究をベースにして研究推進委員会を中心に計画的に進めていく必要がある。UDの研究の土台となる各教科の本質の理解が不十分である。UDをテーマにしながら、各教科の専門性をさらに追究し、教員の授業力向上を目指すとともに、学園組織の活性化を図る。そのためには研究授業を機会として、全教職員が参画して進められる分科会の工夫を行う。講師を招聘し、指導を仰ぎながら研究の全体を進めていく。	学園組織を活性化し、3校の教育活動の充実を図る。	児童に確かな力を身に付けさせるために「マニフェスト2015」の実現を目指す。	各学級・学年でマニフェストの全項目を実践する。		2	3	3	3	教職員の「取組」の評価が、2から3となった。マニフェストを意識して指導にあたる教員は増えた。年度当初にマニフェストを確認し、全項目を全学級で実践できることを目指している。	・評価が高くなってきているのは素晴らしい。 ・様々な状況の児童が授業に集中できる環境づくりができています。 ・マニフェストの具体的な内容を発信してほしい。 ・教員への指導を期待します。		
					市研究協力校として、ユニバーサルデザインを活用した指導法の工夫と環境整備を推進する。	各教室でユニバーサルデザインの視点に立った掲示等、教室環境の整備をする。		2	2	4	3	「取組」と「成果」の評価がともに第1回評価より上がっている。学園研究、校内研究の成果として、教職員の意識が高くなってきている。	・意識の自己評価は難しく、低くつけてしまう傾向があるのではないかと。 ・UDは各学級はできているが専科教室も考えてほしい。各教室から専科教室への広がりを求めたい。 ・UDへの理解や意識が高くなってきたことはよいことです。		
小・中一貫教育活動校	1、UDを活用した教育の推進 2、相互乗り入れ授業の充実 3、体力の向上	1、学園合同研究として、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」をテーマに研究を深めた。講師を招聘して、ユニバーサルデザインについての全教員での研修会を実施するとともに、全教科の授業研究を実施した。さらに、校内の環境整備も実施した。 2、小学校から中学校への乗り入れは中1への数学の授業、中学校から小学校への乗り入れは体育の授業で実施した。乗り入れ授業の計画に対する達成率は、ほぼ100%である。中学校教員による小学校での体育授業での指導、中学1年での算数習熟度別授業での小学校教員の指導を通して、学習面での小・中のより系統的な指導につながった。 3、体力テストの結果を学園全体、各校で分析した。サーキットトレーニング、ストレッチ、柔軟体操、持久走等、各校の課題改善に向けた具体的な取組を実施した。	1、全教員の授業力をさらに向上し、児童・生徒の学力の向上を図っていくことが課題である。そのために、次年度も学園合同研究でのテーマを継続し、ユニバーサルデザインを視点とした授業づくりを全教員で推進していく。三鷹市研究協力校としての発表を活用して、研究をさらに深め、子どもたちにとって「分かる」「できる」授業づくりを行い、学力向上を旨としている。 2、より学力向上につなげていくことが課題である。そのために、乗り入れ授業での小・中教員の連携をさらに深めて指導を進めていく必要がある。また、指導にあたる教員の特性を生かした指導方法を工夫した。 3、3校で体力調査をもとに、体力づくりの取組を連携して実施したが、9年間を見通した活動にする必要がある。小・中学校で系統的な取組になるように、指導計画を見直し、改善、創意工夫を実施していく。	小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を目指す。	小・中学校相互乗り入れ授業の充実を図る。	計画された相互乗り入れ授業を90%以上実施する。		4	3	4	3	中から小への体育の乗り入れ授業、小から中への数学の乗り入れ授業が定着してきている。	・乗り入れ授業の定着は、小・中の児童・生徒にとって、とても刺激になり、効果も上げている。 ・取組はよくできたが成果が思うように上がらない。引き続き力を尽くしてほしい。 ・乗り入れ授業の効果を知りたい。 ・教員の負担が心配です。		
					ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善に取り組む。	研究授業を含め、全学級でユニバーサルデザインの視点に立った授業を実践する。		2	2	3	3	「取組」と「成果」の評価が第1回評価より上がっている。学園研究、校内研究の取組の成果が出てきている。	・UDの視点を学校全体の流れにし、さらに充実してほしい。 ・今後も期待しています。		

取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策	取組項目	学校の経営目標 (中期目標)	今年度の重点目標 (単年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価		第2回評価		自己評価(第2回)	学校関係者評価(第2回)
								取組評価	成果評価	取組評価	成果評価		
児童・生徒の学力・健全育成	学力	1. 基礎学力の定着 2. 教員の指導力の向上 3. 家庭学習の充実	1. UDの発想からICTの効果的な活用については教員の認識が定着してきた。また、昨年度から春季休業中に小学校の卒業生に課題を出し、それに基づいた中学校入学直後の試験で習熟度別クラスを編成するシステムができた。中学校で実施しているJEM(国・英・数)コンテストの定着に伴い、今年度から小学校でJM(国・算)コンテストを実施し、小・中一貫でのコンテストが確立した。 2. 授業アンケートは年2回実施し、CS委員会評価部による集計を経て、その結果等を保護者に通知した。 3. 小学校では、家庭学習の時間を「学年×10分+α」とし、進めてきた。家庭との協力を深めるために、学園スタンダードを作成し、小・中全家庭に配布することができた。	児童・生徒の学力・健全育成	基礎基本の定着、学習規律の確立、学習環境を整備して学力の向上を図る。	基礎基本の定着を図る。	①各学級で具体的手立てを工夫し、補充学習を実施する。 ②ペーシークドリルを活用する。診断シート定着率、全学年80%を目指す。	2	3	3	3	教職員の「取組」の評価が上がった。放課後の時間がなかなか取れない中で、各学年で工夫して補充学習に取り組んでいる。	・各学年で取り組んでいる過程を学年だより等で発信してほしい。 ・補充授業の大切さを感じるが先生方が忙しい思いをするのはどうか。サポート隊の導入はできないか。子どもたちのためによりしく願いたい。 ・大変だと思うが学力向上のためにもサポート隊等の活用を考えてほしい。
	健全育成	1. 人権と言葉を大切にした指導の推進 2. 情報モラル教育の推進	1. いじめ防止は、小・中の児童生徒による「いじめ撲滅宣言」を作成し、全体に呼びかけることができた。体罰防止についても各学校の努力により、生徒からの指摘に深刻なものはない。 2. TEHで作成した挨拶標語をのぼりにして、学園で各学校共通にあいさつ運動を展開している。 3. 生活指導スタンダードを作製し、生活指導を中心に小・中共通理解を図った。 4. CS委員会内に第六中学校区地域健全育成協議会を発足し、「みんなで見守る東三鷹っ子」をスローガンに、年間テーマを「携帯・スマホ・PCにおける情報モラルの育成」として活動することができた。特に、NTTドコモ職員を講師に招き、基本的な知識を身につけることができた。		1. いじめ・体罰0を旨とし、服務研修を充実し児童・生徒とともにいじめ・体罰のない環境づくりを展開していく。 2. 学園としてのあいさつ運動は、実施回数、小・中・地域の連携が課題である。実施回数を増やし、小・中・地域合同のあいさつ運動を実施していく。 3. 小・中の発達段階に応じた指導の在り方を小・中の教員が互いに理解できるよう話し合いを深め、CS委員会と連携して推進していく。 4. 第一回の講演会は、参加人数が少なかった。広く発信し、参加人数を増やす工夫が必要である。	規範意識を高める。	挨拶の励行、基本的な生活習慣の確立など、学校のきまりを守る態度を育成する。	「東三鷹学園スタンダード」や週ごとの生活指導の共通事項を全教職員で指導する。	3	3	3	3	生活指導の共通事項の全教員での指導はほぼ確実にできてきている。「東三鷹学園スタンダード」への取組方法を改善し、効果をあげることが課題である。
コミュニティ・スクールの運営	1. 東三鷹学園のスタンダードの充実 2. サポート隊の充実 3. CS委員会の活動のPR	1. 年度当初に「東三鷹学園スタンダード」を保護者に配布し、各家庭で活用できるようにした。保護者会等で活用促進を啓発するとともに、活用状況をCS委員会を中心に把握した。保護者、CS委員で熟議を実施し、成果と課題、活用方法を考えることができた。 2. 一小での実績をもとに、北野小にサポート隊事務局を立ち上げた。CS委員会を中心に、小・小のサポート隊事務局の連携をさらに強めることができた。 3. CS広報誌は、カラー版を2号、白黒版を2号発行した。学園やCS委員会の活動の紹介だけでなく、「東三鷹学園スタンダード」の各家庭への啓発にも活用した。さらにレイアウトを工夫し、読みやすい広報誌を目指した。ホームページでは、学園、各校の活動を発信していった。	1. 「東三鷹学園スタンダード」を活用した家庭は20%程度であり、大きな課題である。熟議をしたことで、保護者への啓発や活用方法に課題があることが明確になった。次年度に向けて、CS委員会内にプロジェクトチームを立ち上げ、学校・CS委員会が連携して活用率アップを図る。 2. 各校のサポート隊事務局の活動をさらに充実、定着していくことが課題である。サポート隊と協働した授業を旨とし、教育力の向上を図る。次年度以降、中での事務局立ち上げ、サポート隊の活用を検討し推進していく。 3. 広報誌、ホームページの発信状況を評価・検証し、学園、学校の教育活動やCS委員会の活動を保護者や地域の方に分かりやすく発信していく。	コミュニティ・スクールの運営	CS委員会と協働して、教育活動を推進する。	地域人財やサポート隊を活用し、地域・保護者と協働した教育活動を推進する。	地域人財やサポート隊を活用した授業を推進する。各学級、年間30時間以上を目指す。	3	3	3	4	サポート隊事務局が立ち上がり、新たに算数授業でのサポートが始まっている。授業でのサポートを定着し、さらにサポート隊の活動を充実し、効果を上げていきたい。	・成果が上がることを期待します。サポート隊の発展を願っています。 ・サポート隊の充実のため、いろいろな場所で情報を発信していく必要がある。 ・サポート隊が定着、充実するのを見守ってほしい。 ・サポート隊を有効にするには、教員の取組が問われている。 ・人財活用には時間がかかりますが、進めてほしい。
			教職員の地域との積極的な関わりを推進する。		教職員の地域行事等への積極的な参加を促進し、地域、保護者との交流を深める。	2	3	3	3	地域の方と教員の顔が分かる関係をになり、さらに、地域と学校との連携を深めていきたい。	・取り組んだ結果が出てきている。 ・地域行事への教員の参加が何よりです。 ・どんどん地域に出ていってください。		
				特色ある教育活動	体験活動を充実する。	学校農園活動と縦割り班活動の充実を図る。	学校農園活動と縦割り班活動を計画通りに実施する。	4	3	3	4	体育館工事延伸の関係で縦割り班活動が一部変更した。また、天候の関係で農園活動も一部変更した。	・農園活動をしやすい環境を利用して、これからも活動してほしいです。 ・よくできている。さらなる特色を上げると何になるか。 ・予定の変更があり、大変でした。
			オリンピック・パラリンピック教育を推進する。		体力向上に向けた取り組みを実施する。	各学級・学年で体力向上のための具体的な取組を実施する。	3	3	3	3	各学年で体力向上の取組を行っている。3学期には、ゲストティチャーを招いての授業を実施する。	・期待しています。	